

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	:十分達成できている
B	:おおむね達成できている
C	:やや不十分である
D	:不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<p>1 学習意欲・・・タブレット活用研修等を行いICT活用教育の推進はできたが、家庭学習において個に応じた指導が不十分であった。家庭における学習意欲を向上させるにはまだ課題がある。宿題の出し方の工夫が必要である。</p> <p>2 生活習慣・・・生活記録表を活用した個別の支援や、記録表の分析結果、課題等を活用した家庭との連携を行った結果、基本的な生活習慣の定着につながった。生活記録表を活用した家庭学習習慣の定着を図る情報発信を継続的にを行い、家庭と連携をしていく必要がある。</p> <p>3 人権意識・・・人権・同和教育、道徳等の授業や、行事等の体験活動を実施し、様々な価値観や違いを認め合う人間関係作りができた。しかし、コロナ禍の影響もあり、まだまだ現実の対人のコミュニケーション能力を高める必要がある。</p>
2 学校教育目標	夢に向かう颯爽とした生徒の育成 ～「嬉中まなび力」「嬉中しくさ力」「嬉中きずな力」～
3 本年度の重点目標	<p>1 学習意欲・・・生徒の自己肯定感を高め、授業を大切に、対話的な学びができる生徒を育成する。</p> <p>2 生活習慣・・・「あいさつ」「掃除」「時間」を意識して指導し、自律した生徒を育成する。</p> <p>3 コミュニケーション能力・・・生徒同士のつながりを大切に、思いやりのある生徒を育成する。</p>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	○対話的な学びを実現する授業の実践	○話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した生徒80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、授業で適切に「話し合う活動」を設定する。	A	・「授業の話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」生徒90.4%。授業(単元)の中に適切に「話し合う活動」を設定している教員77.8%であった。 ・学力調査等から学習の定着状況が二極化していることが考えられる。個々の生徒への支援も引き続き行っていきたい。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自他の生命や人権を尊重している」と回答した生徒90%以上	・人権・同和教育、道徳等において人権の視点に立った授業や体験活動を行う。 ・集団づくりに関する研修を年間3回以上行う。	A	・「自他の生命や人権を尊重している」生徒99.3%であった。 ・集団づくりに関する研修を2回行った。今後も研修等を行い望ましい集団づくりを目指す。	A	・12月の人権週間では、人権作文の朝読書や全学年共通の人権に関する道徳の授業を行い、人権の大切さを考え、各学年で「人権スローガン」を作成する活動につなげた。成果としては、「自他の生命や人権を尊重している」生徒99.3%で成果指標を達成した。 ・集団づくりに関する研修を年間6回実施した。	A	・大きな問題事案が起こっていないことは、それだけ人権意識が浸透していると考えられる。 ・道徳教育が必要である。それは、各年代で形を変えていくものだと思う。中学生はそれぞれの思いや考えを声に出す段階だと考える。	・人権・同和教育担当 ・道徳担当 ・校内研「集団づくり部会」
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。 ・個別のケース会議を適切に行い、対応方針の決定・共通理解・共通実践を行う。	A	・「いじめ予防と撲滅に努めている」教員100%であった。 ・夏季休業中にいじめ対応研修を行った。 ・個別のケース会議を随時行った。未然防止、早期発見のため定期教育相談を行っているが、時間をしっかりとることができなかったため、後期は時間の確保をし、充実したものにしていきたい。	A	・「いじめ予防と撲滅に努めている」教員100%であった。 ・「いじめを受けていない、いじめをしていない、いじめを見逃していない」生徒94.4%と中間評価よりも向上した。 ・生徒指導協議会を毎月実施し、いじめの早期発見、対応に努めた。 ・個別のケース会議を実施したり、定期教育相談の時間をしっかりと確保したりすることができた。	A	・重大事案が発生していないことが当たり前であるが、細かな事案にも適切に対応してもらっている。 ・「豊かな心を身に付ける」学びは、いじめ防止に対する生徒への意識づけに有効だと思う。	・生徒指導担当 ・教育相談担当
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・各体験活動では、活躍の場と役割を設定し、達成のための指導を行う。 ・キャリア教育を推進し、自分の将来について考える機会を設定する。	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」生徒90.6%であった。 ・「将来の夢や目標を持っている」生徒74.0%であった。 ・総合的な学習の時間では、各学年、実行委員会を組織して生徒の出番を保障することが自己肯定感を高めることにつながっている。 ・「職業調べ」や「高校調べ」に取り組ませ、自分の将来について考える上で情報を得る機会を設定する。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」生徒92.2%と中間評価よりも向上し、成果指標を達成した。 ・「将来の夢や目標を持っている」生徒74.8%と中間評価よりも向上したが、成果指標に届かなかった。 ・「文化発表会」や「生徒会活動」など、生徒が自分で活躍の場を選択できる場面を設定し、主体的な活動になるよう指導の工夫を行った。 ・「職場訪問」や「高校説明会」など、自分の将来について考える機会を設定した。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」生徒92.2%と中間評価よりも向上し、成果指標を達成した。 ・「将来の夢や目標を持っている」生徒74.8%と中間評価よりも向上したが、成果指標に届かなかった。 ・「文化発表会」や「生徒会活動」など、生徒が自分で活躍の場を選択できる場面を設定し、主体的な活動になるよう指導の工夫を行った。 ・「職場訪問」や「高校説明会」など、自分の将来について考える機会を設定した。	A	・中学生の段階では今回の74.8%でも十分に高い数値ではない。 ・中学1・2年生の段階では将来の夢をはっきりと持っているというところはあまりないのではないか。1・2年生の結果を含めての数値では目標達成は難しいのではないかと考える。
○不登校対応、予防に向けた取組の充実	○不登校対応等(不登校予防のための取組、ケース会議等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・不登校対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。 ・個別のケース会議を適切に行い、対応方針の決定・共通理解・共通実践を行う。	・「不登校対応等(不登校予防のための取組、ケース会議等)について組織的対応ができている」教員84.2%であった。 ・夏季休業中にスクールカウンセラーを講師に不登校対応研修を行った。 ・スクールカウンセラーによる講話と前期に6回のケース会議を行った。今後も職員間の情報共有を行い、組織的に対応する体制を構築していく。	B	・「不登校対応等(不登校予防のための取組、ケース会議等)について組織的対応ができている」教員84.2%であった。 ・夏季休業中にスクールカウンセラーを講師に不登校対応研修を行った。 ・スクールカウンセラーによる講話と前期に6回のケース会議を行った。今後も職員間の情報共有を行い、組織的に対応する体制を構築していく。	B	・「不登校対応等(不登校予防のための取組、ケース会議等)について組織的対応ができている」教員84.2%であった。 ・夏季休業中にスクールカウンセラーを講師に不登校対応研修を行った。 ・スクールカウンセラーによる講話と前期に6回のケース会議を行った。今後も職員間の情報共有を行い、組織的に対応する体制を構築していく。	B	・学校は十分対応している。しかし、不登校生徒がいる現状は変わらず、学校や地域の協力の必要性を感じる。 ・今現在も大切だが、将来の方がもっと大切である。自立できる支援という見方で、今どうしたらよいかを考えてあげるようにすればよいと思う。	・教育相談担当
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」生徒80%以上	・生徒会と連携し、給食時の放送等で給食への関心を高める。 ・学校栄養職員と連携し、必要な栄養について知識を深め、自己の健康管理を意識させる。	A	・「健康に良い食事をしている」生徒94.3%であった。 ・給食に用いられている食材や調理方法、料理に関する知識を、毎日給食時に放送で読み上げたり、配膳室前に掲示した。 ・学校栄養職員による給食指導と栄養バランスの良い食事についての講話を1・2年生で行った。今後3年生でも実施していく。	A	・「健康に良い食事をしている」生徒91.9%で、成果指標を達成した。 ・給食週間の1週間は、給食の歴史や給食に関連する情報の放送を行った。給食の始まった理由や地域の郷土料理、メニューについての話などを委員会でも考え放送した。 ・学校栄養職員による給食指導と栄養バランスの良い食事についての講話を3年生で実施した。	A	・食育の充実が図られていると思う。 ・現時点では、保護者へのアプローチということになるが、生徒には「将来のために」という方向性で食育の指導ができたと思う。	・給食・食育担当
	○望ましい生活習慣の形成	○「あいさつを進んでいる」生徒85%以上 ○「掃除を丁寧にしている」生徒85%以上 ○「時間を意識して生活を送っている」生徒85%以上	・「あいさつ」と「掃除」の目的や意味を伝え、継続的に指導を行う。 ・生活記録表を活用し、生活習慣の見直しにつなげる。	A	・「あいさつを進んでいる」生徒86.5%であった。 ・「掃除を丁寧にしている」生徒95.0%であった。 ・「時間を意識して生活を送っている」生徒93.6%であった。 ・「あいさつ」と「掃除」の目的や意味を伝え、継続的に指導を行った。今後も意識付けを行い、継続して指導を行いたい。 ・生活習慣に関わる家庭でのルールづくりを依頼し、生活記録表に記入させた。今後も、意識付けを行い、継続して指導を行いたい。	A	・「あいさつを進んでいる」生徒87.0%と中間評価よりも向上し、成果指標を達成した。 ・「掃除を丁寧にしている」生徒96.5%と中間評価よりも向上し、成果指標を達成した。 ・「時間を意識して生活を送っている」生徒93.4%で、成果指標を達成した。 ・「あいさつ」と「掃除」の目的や意味を伝え、継続的に指導を行った。 ・生活習慣に関わる家庭でのルールづくりを依頼し、生活記録表に記入させた。生活週間改善への意識付けを行った。	A	・「生徒さんに感心した」という観光客の声をたくさん聞く。自転車のマナーと挨拶は「嬉中中の宝」である。 ・学校の啓発があつての現在の望ましい生活習慣であり、学校としての働きかけは十分である。	・生徒指導担当 ・環境美化担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を毎週設定する。 ・部活動休養日を適切に設定する。 ・効果的・効率的な業務推進をする。	B	・「定時退勤日を実践している」教員84.2%であった。 ・「部活動休養日を適切に設定している」教員100%であった。 ・「業務を効率的に行うための工夫をしている」教員85.0%であった。 ・全職員の9月までの時間外勤務の平均時間数が、昨年度より3時間程度増加した。行事や出張等がコロナ禍以前に戻りつつある影響もあるが、今後もICTを活用した業務の効率化を進めていく。	B	・「定時退勤日を実践している」教員73.9%で中間評価をやや下回った。 ・「部活動休養日を適切に設定している」教員100%であった。 ・「業務を効率的に行うための工夫をしている」教員95.6%で中間評価よりも向上した。 ・全職員の1月までの時間外勤務の平均時間数が、昨年度より減少した。成果指標には届いていないが、昨年度よりも時間外勤務を削減できた。	A	・十分に取組がなされている。しかし、学校側の工夫は限界と思える。 ・明確な目標を打ち出すこと、業務を整理すること、それらを決定することで実現に向けての具体的な取組が見えてくると思う。	・管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○特別支援教育	○教員の専門性と意識の向上	○「特別支援教育の理解を深め、個に応じた指導・支援に努力している」教師90%以上	・支援を要する全ての生徒に対して、個別の支援計画を作成し活用する。 ・UDを意識した教室環境や板書の仕方等、生徒の状況に配慮した指導を共通実践する。	A	・「特別支援教育の理解を深め、個に応じた指導・支援に努力している」教員94.7%であった。 ・個別の支援が必要な生徒について個別の支援計画を作成した。インクルーシブな配慮を行った授業の実践を行っている。	

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>・学習意欲・・・「ほめる」を意識して指導し、生徒の自己肯定感を高めることができた。授業では対話的な学びが定着しつつあり学力も向上している。しかし、学力が二極化傾向にあり、次年度は「学びあいができる生徒」を目指し、さらに学習意欲の向上を図りたい。</p> <p>・生活習慣・・・生活記録表を活用した個別の支援や「あいさつ」「掃除」の継続的な指導の結果、基本的な生活習慣が概ね定着したと言える。しかし、常にSNSやゲーム等の依存性に注意する必要がある。次年度は「自分を律することのできる生徒」を目指し、よりよい生活習慣の定着を図りたい。</p> <p>・コミュニケーション能力・・・人権教育やよりよい集団づくりを意識した取組を行い、生徒の人権意識を高めることができた。しかし、いじめや不登校等の課題は残っており、次年度は「仲間を大切にできる生徒」を目指し、さらによりよい集団づくりに力を入れたい。</p>
--------------------	---